

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572104297		
法人名	社会福祉法人 比内ふくし会		
事業所名	扇寿苑グループホーム (ひだまり棟・こもれび棟)		
所在地	大館市比内町扇田字中山川原56-7		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	平成29年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは「利用者の方々の思いや考えを大事にし、健康で自由に自立した生活を支援します。」の理念のもと地域の方々との交流が図れる様に馴染みのある商店や床屋などに出向いたり、気分転換が図れるようにドライブなど外出支援に取り組んでいます。又、自身で出来ることを見極めながら畑仕事や花壇づくり、作品作りなど達成感が得られるように個々に合った対応を行っております。作品などは地域行事へ出展しております。  
ご家族に毎月グループホーム便りや担当職員が手紙でホームでの生活をお知らせし、ご家族との関係を密にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・法人内に特別養護老人ホーム、デイサービス等の事業所があり、人事交流等によって経験豊かな介護職員が配置され、利用者へのサービス向上に寄与している。
- ・法人内で運営推進協議会を設置して、事業所同士の意見交換を行うなど、法人全体で職員のスキルアップに積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 <b>代表者と</b> 管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念は玄関や職員の出入り口など常に目のつくところに掲示し、日々意識してサービスに繋げている。	施設内各所に法人理念及び事業所理念を掲示している。また、職員の名札の裏側にも理念が記載されているので、職員は常に確認しながら利用者を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に地域交流は難しい面がある為、こちら側から地域へ買い物や馴染みの床屋へ出掛けるなど配慮している。地域行事に積極的に参加し、作品の出展など行き交流が図れるようにしている。	市街地から離れており、地理的な要因もあって地域の人々が日常的に訪れることは少ない。そのため、施設から積極的に地域に向かうようにしている。地元比内町の芸術文化祭に利用者の作品を出展し、地域住民との親交を深めている。	
3		○事業所の力を活かした <b>地域とのつながり</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に <b>伝え、地域貢献している</b>	毎月のグループホーム便りを発行し、認知症についての情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況状況を報告し、委員の方々より意見を貰いサービスの向上に向け努力している。	運営推進会議には行政職員、医療関係の専門職、家族等が出席し、利用者の近況が報告されている。その他には事故事例の報告や感染症防止に関して話し合い、今後の利用者支援に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者、市包括の担当者は運営推進会議に参加され、随時相談や様々な情報の提供を頂き協力関係が築かれている。	地域包括支援センターから新規利用者の受入に関する相談等を受けている。また、生活保護受給者に関する相談に関してはサポートセンターを活用するなど、行政側との連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する研修をおこない理解を深め拘束をしないケアを心掛けている。玄関はセンサーで感知することで施錠していない。	開設以来、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、実施した事例はない。利用者が玄関から外に出た際は職員が付き添うようにしている。身体拘束に関するマニュアルが整備されており、毎年内部研修を行い理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を継続しながら、身体的虐待だけではなく言葉による虐待など様々な部分にも注意して業務にあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者の方はご利用されていないが内部研修を行い制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時に十分な説明を行い、利用者やご家族の不安の無いように説明し同意を得て、書面にて署名、押印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に第3者委員の掲示や意見箱を設置し、意見や要望について出しやすい配慮を行っている。 法人が運営推進協議会を発足し、意見等を反映出来るような機会を設けている。	玄関に意見箱を設置しているが、意見が寄せられたことはない。利用者の受診の際に家族へ連絡し、その際に意見を募るようにしている。家族が面会に来た際には近況を報告し、要望等を伺うように努めている。	意見箱に投函しにくいといった家族の心情を汲み取り、より多くの意見等が寄せられるように、別の方法で意見を募ることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや連絡ノートを活用し、職員の意見を反映できる機会がある。	毎月のカンファレンスや法人内のブロック会議等において、職員の意見を聞く機会を設けている。会議等で話し合われた内容を利用者の接遇向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で委員会を立ち上げ、職場環境整備を行い働きやすい環境になるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス研修が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内による他事業所交流の場を設けている。 大館市による災害ネットワークによる合同避難訓練が1年に1回持ち回り制で実施している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談により、思いや要望など本人の声に耳を傾け、入所後も傍に寄り添いながら信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や面会時など不安なことや要望など気軽に相談できるような環境を作っている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることの見極めを行い、負担とならない様に協力しながら生活する関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑して頂きやすい環境を作り、面会や外出や外泊等協力し合っている。敬老会などホーム行事への参加により、本人を支えていく関係が築けている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある商店や床屋、かかりつけ医への受診など地元への外出支援を行っている。	利用者が昔から利用していた理髪店を継続的に利用したり、利用者のかかりつけ医を受診するなど、入所前の関係が途切れないように支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を把握し、共同作業を通し馴染みの関係を築いている。孤立しない様に一人になっている方は職員が場面展開を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も馴染みの関係が持てる様に相談や担当ケアマネとの連携に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら一人一人の意思や意向の把握と確認に努めている。困難な方には普段の様子や言動から把握出来るように努めている。	利用者との食事の際に日常的な会話を通じて本人の意向を把握するように努めている。また24時間シートを活用して利用者の行動を把握し、本人が望む生活ができるように支援している。	日常的な会話を通じて得られた情報は記録されていない。他の職員と情報を共有して利用者の支援にあたることを考慮し、本人の意向を記録として残すことを期待したい。
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 <b>生きがい</b> 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートの活用を行い、情報の少ないところをご家族へ伺い情報の収集に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートの利用で1日の生活状況の把握を行っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前に本人やご家族の意向を伺い、思いや要望に沿った安心した生活出来る様に職員間で介護計画作成にあたっている。	入所前に利用者本人や家族と事前面談を行い、利用者に係る情報を職員間で共有している。入所後は連絡ノートを活用して、利用者の要望に沿うことができるような介護計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況はパソコン内に入力し職員間で共有できるシステムとなっている。気づき等は申し送りノートを活用し常に見直しができる様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまで、本人を支えてきた家族や親類、友人等に協力を頂きながら支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医やかかりつけ薬局の継続を行っている。協力病院や訪問歯科、など適切な医療が受けられるように支援している。	利用者が以前から利用していた医療機関や薬局を継続して受診・利用できるように支援している。また、利用者の利便性を図るために訪問歯科を取り入れたり、感染症防止のため協力病院によるインフルエンザ予防接種を実施している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職者の為適切な受診が受けられるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師やケースワーカーとの連携を行い情報交換や相談にのってもらい関係作りが出来ている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないがホームで出来ることを十分に説明し、理解頂き本人やご家族の意向に沿いながら支援している。又、病院関係者と密な情報共有を行いチームで支援に取り組んでいる。	終末期の対応は実施していないが、入所時に家族等に対してホームで出来ることを説明している。医療行為が必要になるまではホームで対応しており、その後医療機関へ入院したり、法人内の特別養護老人ホームに入所できるように支援している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成を行っており、職員全員が周知している。1年に1回AEDの取り扱いなどの研修が行われる。法人の事業所にも救急時の応援体制が出来ている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新任者には事業所内で避難経路の確認を随時実施し、法人内では年2回の防災訓練を実施している。また、水害対策としては地域との連携が出来ており、災害時ネットワークの構築があり、協力体制が出来ている。	毎年2回の避難訓練を実施しており、緊急時の避難方法を全職員が理解している。河川が近くにあるので、水害対策として市内の他の事業所と災害時ネットワークを構築しており、有事の際の協力体制が確立している。	定期的な避難訓練を実施しているが、夜間の避難訓練に関してはあくまでも想定で対応している。今後は実際に夜間の避難訓練を行い、課題を検証することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人、一人の個性を把握しプライバシーに配慮し場面に応じた声掛けを行い、対応している。	利用者個々の生活スタイルを把握しており、随時個別に対応している。入浴や排泄に関しても、利用者本人の尊厳やプライバシーに配慮した支援に心掛けている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉かけやプライバシーに配慮した対応を心掛けている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	話しやすい雰囲気を作り、本人の希望や思いを尊重し個人のペースに沿った対応を心掛けている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて散髪や髪染めなど支援している。 化粧品などの購入希望時などは一緒に買い物に同行するなどおしゃれを楽しめるようにしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理したり、メニューの希望を伺い、買い物や食事づくりを一緒に行っている。	山菜や果物の皮むきを行うなど、食材の下準備や盛り付け等、利用者ができる範囲で食事づくりに関わっている。医療機関受診時には利用者の好みに応じて外食できるように支援している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量ともに1日の状況を把握している。 むせ込みや噛み切れない時等はトロミや細食にするなどの工夫を行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや嗽など、声掛け見守りなど確認をしている。夜間は入れ歯洗浄剤の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握を行い個々に合った対応を行っている。	24時間シートを活用して利用者個々の排泄パターンを把握している。排泄介助の際は、利用者本人の尊厳を傷つけないように、さりげない対応に心掛けている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を確認し、便秘時には水分の補給を勧めたり腹部マッサージにより排泄につながる様に対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態に合わせてながら個々に合った入浴を行っている。	毎日バイタルや排泄状態を確認しており、利用者の健康状態に応じた入浴に心掛けている。入浴は午前か午後の時間帯を選択できるようになっており、利用者の希望に応じて入浴を楽しむことができるように支援している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で自由に休んだり、安心した入眠が出来る様に会話をするなど不安感が無くなるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個人ごとに仕分けし管理している。服薬についても、服薬リストやお薬の説明表があり変更時都度確認している。服薬時個別の対応が必要な場合はかかりつけ薬局と相談し対応している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力が発揮できるよう、得意なことで役割が持てる様に配慮している。嗜好品や趣味なども楽しめるよう配慮し散歩、草取りなど取り入れている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参りや法事などはご家族の協力を得て支援している。近所の買い物、イベントなどへも外出し地域の方と交流している。出来るだけ一人一人の希望に添えるよう努力している。	利用者個々の要望に応じた外出支援を行っており、日常生活のストレス軽減にもつながっている。法要等に参加する場合は、専用車で送迎するなどして臨機応変に対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は金庫にあずかっているが購入時の支払い時個々の力量に合わせて支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は個々の力に合わせ、使用できるように支援している。遠方の家族とは電話や手紙などのやり取りが出来る様に支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールではそれぞれ気に入ったスペースがあり、指定席のように利用され、雑談を楽しまれている。視線が合う事が苦手とする方にもくつろげるようなソファの配置に配慮している。季節感を感じて頂けるように季節の花をかざったりと工夫している。	明るく開放的な空間で利用者が自由に過ごしている。中心となるホールでは利用者の居場所が決まっており、気に入った場所でくつろぐことが出来るように支援している。季節ごとに室内の装飾を変えて四季を感じていただくように取組んでいる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに気に入った居場所があり、気分よく過ごせるよう椅子やテーブルの配置に配慮している。季節に合った花を飾ったり、制作した作品などをホールに飾っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みの物や仏具、写真など持って来て頂き、居心地よく、安心して過ごせるように配慮している。	ベッドは備え付けだが、他の家具類は利用者が自宅で使用していたものを自由に持ち込むことができる。使い慣れた家具や日用品、家族の写真や位牌等に囲まれて心地よく過ごすことができるように配慮している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式のアセスメントシートを活用し、「出来ること」、「わかること」を把握し個々に合わせて安全に過ごせるように配慮している。		